

秋田の土地改良

12

2009・DEC



みどり
水土里ネット秋田

目次

| | | | |
|-------------------------|----|----------------------------------|----|
| 平成21年度土地改良事業推進大会…………… | 2 | 平成21年度土地改良関係団体役員講習会を開催………… | 12 |
| 第32回全国土地改良大会島根大会…………… | 6 | 平成21年度秋田県農村総合整備センター幹事会、運営委員会を開催… | 13 |
| 「水土里の集い」を開催…………… | 6 | 県、県議会への要請活動…………… | 13 |
| 農村地域環境保全対策事例発表会を開催…………… | 7 | インフォメーション…………… | 14 |
| 吉田沢ため池で「ため池災害訓練」実施…………… | 10 | 連合会日誌…………… | 14 |
| 平成21年度農業農村整備技術強化対策事業 | | 農業農村整備フェアを開催…………… | 15 |
| 団体営事業支援研修(施工技術研修)…………… | 10 | 「疏水のある風景」写真コンテスト2009…………… | 16 |



11月2日(月)、第132回秋田県種苗交換会の協賛行事として本会主催の「平成21年度秋田県土地改良事業推進大会」が秋田市文化会館(秋田市)で開催され、農地・水・環境保全向上対策や耕作放棄地の解消に積極的に取り組んでいくことを決めた。

大会には中野副知事を始め、富樫県議会議員、穂積秋田市長、金田勝年衆議院議員など多数の来賓を迎え、県内各地の土地改良関係者ら約1,200名が参加。高貝会長が「今年の夏の豪雨・長雨で農作物の生育が心配されたが、どうにか無事収穫の秋を迎え安堵している。国政選挙において政権交代があり、公共事業の見直しが行われており、21年度予算の概算要求では、原則15%減の大変厳しいものがある。国民の必要とする食料を安全、安心、安定的に提供するため引き続き土地改良事業の推進に努めて参りたい」とあいさつした。(開会挨拶を別掲)

来賓祝辞などに続いて大会議事に入り、工藤久兵衛副会長(井川町土地改良区理事長)を議長に選出し、県農林水産部の川原次長による秋田県農業農村整備事業の現状報告が行われた。

また①農業農村整備事業予算の確保②農業水利施設の計画的更新と適切な保全管理③農地情報の一元的管理とデータベース化の推進④農地・水・環境保全向上対策の推進⑤耕作放棄地の解

消、中山間地域の総合的振興⑥21世紀土地改良区創造運動の邁進。などをもちこんだ大会決議案を昭和土地改良区職員の奈良崇史さんが力強く朗読し、満場の拍手で決議が採択された。

このほか、土地改良事業に尽力された9個人、2団体の表彰、第12回美しく豊かな農村づくり写真コンクール表彰式が行われ、土地改良事業のたゆまぬ推進を誓った。

なお、土地改良事業関係の被表彰者は次のとおり。(敬称略)

【知事表彰】

〈個人〉

- ◇戸田達雄(大館市南土地改良区理事長)
- ◇進藤八千代(河辺土地改良区会計主任)
- ◇藤沢幸遠(秋田県田沢疏水土地改良区事務局長)

〈団体〉

- ◇大仙市神宮寺松倉堰土地改良区(高橋新亮理事長)
- ◇仙北平野豊川土地改良区(藤原一男理事長)

【会長表彰】

- ◇小館昇(かづの土地改良区理事)◇菊池博悦(山本郡岩堰土地改良区理事長)◇木元政勝(八郎潟西部干拓地区土地改良区理事)◇高橋慶市(秋田県仙北南部土地改良区総括監事)◇栗林正夫(大仙市大曲土地改良区理事)◇太田明雄(山城水系土地改良区理事長)

大会あいさつ



水土里ネット秋田会長

高 貝 久 遠

土地改良事業推進大会の開会に当たり、一言ご挨拶申し上げます。本日は、関係者皆様には多数ご参会頂き、このように盛大に開催することができました。

厚くお礼申し上げます。

また、後程ご紹介申し上げますご来賓の皆様には、ご多用中のところご臨席を賜り誠に有り難うございます。

皆様には日頃から農業農村整備事業の推進はもとより、水土里ネットの運営につきまして、特段のご理解を頂いており、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。

さて、今年の県内の天候は夏の長雨と日照不足により稲の作柄や野菜、果樹等の生育不良が心配されましたが、西日本のような豪雨による甚大な災害に見舞われることもなく、どうか平年の作柄を確保できるようであります。

この大会は第132回を数える種苗交換会と機を一にして開催しており、農家が苦勞して育てあげた汗の結晶の収穫を感謝するこの時期に、生産基盤の整備と維持・管理を担う土地改良関係者が来年の五穀豊穡を願いながらこのように一同に会しますことは誠に意義深いものがあるものと存じます。

今年の会場となったこの秋田市は、県庁所在地として県下一の人口密集地の消費都市であります。一步市街地を抜け出しますと立派に整備された美田が広がり都市近郊の野菜、果樹の生産団地が広がっている他、作り酒蔵、漁港等も備わっており、美の国秋田、食の国秋田の「口の肥えた」秋田市民の食料を充分賄っております。

この後、引き続いて表彰が行われますが、受賞される個人並びに団体の方々の高いご功績に対し、改めて敬意と感謝の意を表しますと共に、今後ともご健勝で農業農村整備事業の促進と地域社会の発展のためご尽力頂ければ、幸いに存じます。

また、写真コンクールで受賞された方々には、コンクールの趣旨に沿った優れた作品を応募して頂き、誠に有り難うございました。心から、お祝い申し上げます。

さて、今年の夏は地球温暖化による異常気象の到来かと思わせる豪雨災害ばかりでなく、衆議院選挙において自由民主党が昭和30年の結党以来初めて第一党の座を失い、戦後初めて総選挙で野党が単独過半数を得て政権が交代するという政治上の歴史的な大転換が起こりました。

皆様ご承知のこととは思いますが、民主党のマニフェストでは「国民の生活が第一」等と訴え、政策の各論に、戸別所得補償制度で農産漁村を再生する(1.4兆円程度)、食の安全・安心を確保する(3,500億円程度)、外交では、「緊密で対等な日米関係を築く」ため米国との間で自由貿易協定(FTA)の交渉を促進し、貿易・投資の自由化を進める。

その際、食の安全・安定供給、食料自給率の向上、国内農業・農村の振興などを損なうことは行わない。等を掲げられました。

このマニフェスト実現のための財源として公共事業の見直し等(9.1兆円)、埋蔵金等の活用(5.0兆円)、租税特別措置の見直し(2.7兆円)により平成25年度には16.8兆円の財源を実現するとしております。

その一環として早速、21年度の補正予算の見直しに着手され、農水省関係では「農地集積加速化促進事業」約3,000



▲高貝会長あいさつ

億円の全面停止を含め4,763億円が削減され、全体では3兆円に迫る金額となっております。

一方、10月15日には、平成22年度の概算要求が取り纏められマニフェストに掲げた政策関連予算7.1兆円を織り込んだ結果、総額で95兆円に達し前年当初予算に比べ、6兆5千億円の増加となっております。

農林水産省分では予算総額2兆4,071億円（前年比6%減）で、公共事業は15%減の8,495億円となっております。

そのうち、私共と密接なものとして「農地・水・環境保全向上対策」233億17百万円（16%減）、「農地有効利用生産向上対策事業」43億円（62%増）、「耕作放棄地再生利用緊急対策交付金」70億2千万円（66%減）等となっております。

私共水土里ネットが、その整備に取り組んでいる農業生産基盤は、工場で言えば工作機械やベルトコンベア等の様々な生産手段に当たります。

我が国は優れた「ものづくり」で世界でも有数の工業製品の製造・輸出国となっておりますが、それは日本人の勤勉さと相まって研究開発をはじめ最新鋭機の導入等の投資を怠らなかつたからに他ありません。

翻って我が国の農業につきましては、戦後の復興期から私共の先人が営々と土地改良事業を推進し、今日の見事な美田や畑地、樹園地、採草放牧地、ダム、頭首工、ため池、用排水路及び農道等の農業生産基盤を築きあげたところであります。

農業は国民の生命を支える食料を生産する大事な産業であり、世界の趨勢は、人口の増加に伴い不足こそすれ過剰になることは有り得ないのであります。

国連の発表によりますと平成20年の世界人口は67億5千万人であり、42年後の平成62年（2050年）には24億4千万人余り増えて、91億9千万人に達すると予想されております。

また、経済発展著しい中国、インド、ブラジル等の中で特に中国は、鉱業資源やエネルギー資源の確保に躍起となっており、食料においても国民の生活水準の向上に伴い肉類の需要が増加し、飼料穀物に対する需要が高まりつつあります。

一方、世界の穀物の最大の輸出国であるアメリカは食料の輸出からバイオ燃料へ政策転換して穀物価格の高騰を招来し、中南米諸国で主食であるトウモロコシの入手が困難になったのは記憶に新しいところであります。

世界的食料不足に陥った場合、アメリカが自国の必要な食料を削ってまで食料自給率40%の日本に振り向けてくれるのでしょうか。自分の身は自分で守るしかないのであります。

農業基盤は食料の生産基盤であり、その整備は国民の必要な食料生産の効率を高め、安全で安心な食品を安定的に生産し、消費者に届けるため行われるもので、無駄な投資は一つもないと確信するものであります。

昔から不況時の失業対策に公共事業が活用されたのは周知の事実であります。

不要不急の公共事業は確かに見直す必要があろうかと存じますが、農業基盤に対する投資は、食料の生産性の向上と地元農業者の就業機会の創出が図られますので、増額はともかく前年並みの予算措置をお願いしたいと存じます。

農業は人類が狩猟から農耕に生活の糧を求めた古代から人間が生きるために絶える事無く続けてきた営みであります。



▲受賞者と記念写真